

特定非営利活動法人

JYMA日本青年遺骨収集団

五十七年の歩み

◇JYMAの始まり

当法人は、昭和四十二年六月「学生慰霊団」として発足しました。左記の三つの活動目標を定め、戦争の傷跡を今も残す外地に赴き、戦争というものを肌で体験し、真の友好を生むと同時に現在の日本を知ろうとする有志学生によって設立されました。

当初の活動目標

- 一、日本軍玉砕地における慰霊及び慰霊碑設立
 - 二、現地における政治・経済・地理・風俗などの実地調査
 - 三、日本文化の紹介、及び住民との親善
- 学生のアルバイト収入をもとに第一次派遣、第二次派遣を行うなかで、日本軍の玉砕地には今なお「草むす屍」同然に数多くのご遺骨が放置されている悲惨な現状を目の当たりにし、遺骨収集を行うことが急務であり、かつ戦後生まれであっても国民としての義務であると考え、昭和四十五年六月「学生遺骨収集団」と改名、遺骨収集を主たる活動目標に変更しました。

第三次派遣では、約二、〇〇〇柱のご遺骨を収容しましたが、第四次派遣は、現地の政情不安やご遺骨の国外持出し禁止などで、ご遺骨のあることはわかっていながら収容活動は許されず、以降厚生省との「官民一体」の協力体制のもとで遺骨収容が行えるよう努力する方針としました。

なお、この際団員を学生だけに限ることなく、広く一般若人にも呼びかけることとし、昭和四十六年五月二日、名称を「学生遺骨収集団」から「日本青年遺骨収集団」へと改称しました。

第六次派遣は、現地で厚生省と初の「官民一体」の民間遺骨収集団となり、三五八〇柱のご遺骨を収容しました。

昭和四十七年三月、民間の遺骨収集関係団体を一体化した組織である「戦没者遺骨収集促進団体協議会」の加盟団体となりました。

第七次派遣は、前年に続く官民一体の遺骨収集団となり、九〇九九柱のご遺骨を収容しました。

また、昭和四十七年十一月より行われたルバン島小野田少尉捜索には、厚生省の依頼を受け、団員三名が参加しました。

◇JYMA消滅の危機

その後、例年四〜五回実施される戦没者遺骨収集政府派遣団に参加協力していましたが、昭和の終焉とともに、学生運営のため、資金調達能力に欠けるという弱点が顕著になりました。活動の困窮、熱意や意志のある有為の人材を確保できなくなり士気が低下した事等の事由が相俟って団員数が減少し、団員が運営資金捻出の為にアルバイトと学業との両立に苦慮するようになりました。ついには派遣費用の参加団体負担分の補填ができず派遣への参加を見送らざるを得ない状態にまでなりました。加えてバブル経済の影響により、新宿近辺に構えていた事務所の家賃もほんの数年の期間でほぼ二倍近くに高騰した為、事務所の維持が困難となり、とりあえず当時の代表者である学生の下宿を連絡先にして活動することとなりました。

そして、平成二年の第二次派遣を最後に、代表者である学生が後継者を指名せぬまま卒業し、代表者不在のため連絡の取れない自然消滅的な団体状態に陥ることになりました。

そういった私たちの現状とは相反するように、遺骨収集事業はかつての激戦地ばかりでなく、東西冷戦構造の崩壊による社会構造の激変により、私たちが活動休止する以前には外交的事由で入域できなかった旧ソ連をはじめとする「東側諸国」でも精力的に政府派遣が実施されるようになりました。

しかし、このような時代の変遷に際し、かつての旧戦域の隅々まで活動していた青年の姿がないことに往時を知る関係者一同は、青年層の参

加協力を復活させなければならぬと考えました。そして、再開に向け多くの篤志家・優良企業の皆様のご支援を仰ぎ、青年層の派遣を再開するため「戦没者遺骨収集促進団体協議会」関係団体及び厚生省に了承を得て、新たに現役大学生に呼びかけ、平成七年二月、五年ぶりに日本青年遺骨収集集団としての政府派遣団派遣隊を再結成しました。

第二〇二派遣は、約五年のブランクがあつた団体を、OBらによる指導・教育による現役派遣隊が協力団体として復活できるか否かの試金石だったものの、隊員二同若い力で協力し派遣団より推奨を受け、平成七年度派遣より国庫補助金給付団体として復活することが叶いました。

平成七年六月、第二〇三派遣からは私たちが初めてシベリア抑留中死亡者遺骨収集派遣に参加した派遣であり、創立以来未知の派遣地域となるため、情報収集・活動手順を確認したOBが休職し参加しました。この後は、南方戦域における遺骨収集が年を追うごとに少なくなっているのに反し、徐々に北方中心へとその活動の重点を移行させることとなります。

そして、御英霊の慰霊顕彰事業を次代に継承していくことを広く内外に宣明するとともに、従来の若者の熱意を根幹に活動してきた任意団体から、戦略的事務運営組織への体質改善を図るためにNPO法人へ改組する準備をして、平成十四年九月三十日、東京都知事より特定非営利活動法人ジエイワイエムエイとして認証を受け、十月十六日をもって設立登記を完了しました。

◇支援事業と派遣

平成十六年、フィリピンでルソン島・ミンダナオ島を中心に貧困により学業を修めることの困難な学生に対して学費支援や教育支援活動を企画し、現地において調査活動を行いました。他にも、平成二十年度にガダルカナル島慰霊碑の修繕、清掃、慰霊巡拝を実施しました。

平成二十一年度NPO法改正により、日本青年遺骨収集集団と表記できるとなるようになり、名称を特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集団と改名しました。

平成二十二年度からは戦史検定事業を開始し、第二回目の戦史検定は平成二十二年十二月二十一日に上智大学にて開催しました。

戦史検定事業は史実の継承と在外慰霊碑の保全を目標に行っております。

平成二十三年三月十一日に起きた東日本大震災を受けて、NPO法人ASTIEOの職業調理師派遣支援ならびに同国際ボランティア学生協会（IVUSA）のアテンドで、三度の被災地支援派遣を実施しました。宮城県では石巻市と気仙沼市、岩手県では釜石市と下閉伊那山田町で炊き出し支援などを行い、復興に向けての支援活動を行いました。

八月には、ガダルカナル島の丸山道における自主派遣を全国ソロモン会及び一般参加の社会人の方々と共同で実施しました。この派遣では、政府応急派遣隊が組まれ現地で合流しました。厚生労働省職員二名が丸山道における野営活動に後半参加し、私たちとともに丸山道に多く残されたご遺骨の現状を確認しました。

平成二十五年度は、ワシントンの米国立公文書館に保存されている米軍の戦闘詳報等の記録文書を外部協力者と共同で調査・複写し、太平洋地域の戦地における日本軍将兵埋葬地に関する情報の収集を行いました。収集した情報を分析のうえ埋葬地点特定のための自主調査ならびに今後の政府派遣に結び付けました。

平成二十六年度は、全国ソロモン会と協同にてガダルカナル島第四次自主派遣も行われ、学生七名が参加しました。この派遣では、海上自衛隊練習艦隊によるご遺骨の本邦送還が実現しました。この試みは戦後初であり、ガダルカナル島に日本の艦艇が来航するのは、昭和十八年二月のガダルカナル撤退作戦「ケ号作戦」以来、実に七十一年ぶりのことでした。

年明けの二月には、沖縄自主派遣を実施しました。見つかった遺留品である印鑑から故人を特定し、ご遺族へ返還することができました。NHKによる放送では、先述の印鑑の返還場面が大々的に取り上げられ、大きな反響を呼びました。

平成二十七年度は戦後七十年の節目の年であり、メディアや世間か

らの注目が一段と高まった年でした。今回の沖縄自主派遣は、申請等を当法人学生が中心となつて行い、自己完結型の派遣となりました。また、派遣に際して日本テレビの「ニュース・ゼロ」のスタッフも同行し、その様子が八月十四日の同番組にて放映され、大きな反響を得ました。そのほかにもフジテレビやNHKラジオでも当法人の活動が取り上げられ、戦後七十年の節目の注目の高さを感じることができました。

八月には全国ソロモン会と協同で第五次ガダルカナル島自主派遣も行われ、密林迂回路である「丸山道」奥地での活動に主眼を置き例年以上に広範囲にわたつて派遣隊が活動しました。また、当派遣に際してテレビ東京スタッフが現地まで同行し、その模様が十月二日のニュース番組にて取り上げられました。

当該年度から始まった新たな試みとしては、テニアン島における遺骨調査をすべく米国・公文書館に保管されている大戦中の米軍資料を読み解き、実際にご遺骨が発見される可能性の高い地点を特定する試みです。十二月にグアム島を訪問した際に米軍と交渉を実施し、今後協同で収容活動を実施すべく協議を重ねました。

平成二十八年度は、三月二十四日に成立した「戦没者遺骨収集推進法」により、戦没者の遺骨収集を「国の責務」とし、平成二十八年度から平成三十六年度の九年度に遺骨収集を集中実施することとなりました。そこで、厚生労働省の指定する法人に二括委託し、事業の一層の推進を図ることを目的とした指定法人「日本戦没者遺骨収集推進協会」が設立、稼働した年です。

五月には、グアム平和交流プログラムにおいてグアムと日本人高校生双方二名ずつを相互に渡航させ、歴史・平和・自然体験等を通じて両国の若者が交流して友好関係を築き、慰霊活動を行いました。

八月のガダルカナル島自主派遣では、応急派遣団合わせて当法人から六名の学生が参加し、十二月十五日には海上自衛隊の護衛艦「たかなみ」によつてご遺骨の帰国が叶いました。

平成二十九年度は当法人が創立五十周年を迎えた年でした。六月に五十周年記念会を行い、当団の活動に携わつてきたOB・OGや活動を

支えてくださった支援者の方をお招きしました。会では、櫻井よしこ先生に講演をしていただきました。講演の内容としては「次世代を担う若者に送るエール」というタイトルをもとにこれからの日本を背負う私たちが世代に向けての講演でした。

平成三十年度七月には、西日本を中心に未曾有の豪雨に見舞われ、当団OB、現役学生で現地への復旧ボランティアを派遣しました。「JYMAとして何かできないか」との声が自然と上がつて実施に至りました。また、十月には台風二十六号が北マリアナ諸島を直撃し、甚大な被害をもたらしました。当団OGが現地へ駆け付け救援物資派遣も実施しました。

二月には、マリアナ諸島慰霊碑修繕派遣も実施され、支援者の方々のご篤志にてJYMAの慰霊碑を完成させることができました。具体的には、グアム島シゴにあるグアム平和慰霊公苑の慰霊碑修繕、テニアン島にある当団が昭和四十六年に建立した慰霊碑の銘板設置です。

令和元年度は「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」の制定時に想定された集中実施期間の折り返しに当たる年でした。そのような中で、厚生労働省の遺骨の取り違えや隠蔽が発覚しました。この問題を受け当団は苦渋の決断として、現地での焼骨を伴う派遣の参加を見送りました。そのうえで現地では日本人以外の遺骨混入の可能性を排除できない状況を鑑み、焼骨せずご遺族のもとにお返しするためDNA鑑定をするように提言しました。その後、シベリア以外の地域においても日本人以外の遺骨が混入した疑いがあるとの報道を受け、厚生労働省では三つの作業チームと有識者会議、加藤厚労大臣（当時）によるDPA（米国防総省捕虜行方不明者捜索局）の視察を通して、当団の主張が受け入れられ、令和二年二月以降は収容派遣で集められたご遺骨の科学的鑑定が済むまでは、現地に留め置かれることになりました。また、三月二十二日には、無念にも現地調査派遣中に殉職された榎崎修一郎先生の二周年を迎え、それに合わせて榎崎先生の慰霊碑銘板の設置及び慰霊祭をテニアン島で行いました。榎崎先生は形態人類学のスペシャリストであり、絶大な信頼を寄せられていました。今後も当団

は植崎先生の志を胸に活動に邁進していきます。

令和二年度から令和四年度にかけては、新型コロナウイルスの世界的な蔓延の影響を受け、国内派遣を中心に行いました。しかし令和二年六月に機関誌「遺烈」の電子版を発行し、機関誌の新しい形を実現しました。

令和五年度は、新型コロナウイルスによる活動制限もおおむね解除され幅広い地域への海外派遣が再開された二年でした。

令和六年度は、六月から八月にかけてクラウドファンディングを実施し、その結果、総勢七十六名の方からご支援をいただきました。この支援金は、沖縄自主派遣実施費用に充てられました。十二月に行われたバン格拉デシユ遺骨収集派遣は、今まで行われていなかった派遣で、未知の派遣地ではありませんが、ご遺骨をお迎えすることができました。また、新型コロナウイルスや軍事クーデターにより実施できなかったミャンマー現地調査派遣を三回実施しました。二月には学生二十五名、社会人や協力団体の方々を合わせると二〇〇名近くの大人数で沖縄自主派遣を実施し、ご遺骨をお迎えすることができました。

特定非営利活動法人JYMA日本青年遺骨収集団通算実施概況

次派遣	参加日数	参加人員	収骨柱数
一〇一次派遣迄	二、一九三日	八六四人	一三七、四三二柱
一〇二次派遣	一五日	五人	三九柱
平成七年度	一八二日	四一人	一、〇九八柱
平成八年度	七四日	二四人	五八七柱
平成九年度	一八一日	四九人	九七三柱
平成一〇年度	二一〇日	四一人	一、七八五柱
平成一一年度	二三九日	三八人	一、五五三柱
平成一二年度	二〇八日	四九人	一、〇二三柱
平成一三年度	二二六日	四七人	一、〇八四柱
平成一四年度	二三五日	四四人	一、二四七柱
平成一五年度	二五〇日	五九人	九九三柱
平成一六年度	二三九日	四四人	七一五柱
平成一七年度	一九六日	四八人	五〇六柱
平成一八年度	一四三日	三〇人	三八二柱
平成一九年度	一四〇日	三九人	五〇八柱
平成二〇年度	一五七日	五三人	一、〇六三柱
平成二一年度	一八一日	三五人	四、九三五柱
平成二二年度	一七三日	四七人	一、三七七柱
平成二三年度	一五一日	五七人	一、五五三柱
平成二四年度	四〇八日	七四人	八六二柱
平成二五年度	三二五日	八一人	一、七八八柱
平成二六年度	五二二日	八六人	一、〇四七柱
平成二七年度	一八七日	五八人	八四四柱
平成二八年度	二二四日	六三人	六五六柱
平成二九年度	二四三日	四七人	九一三柱
平成三〇年度	二五〇日	四九人	八一九柱
令和元年度	一五七日	三三人	三一二柱
令和二年度	五七日	一六人	五一柱
令和三年度	五七日	二〇人	二五柱
令和四年度	八二日	二四人	一〇九柱
令和五年度	一六五日	三六人	八五柱
令和六年度	二四三日	六六人	三四柱
四九一回総合計	八、三三一日	二、七一一人	一六六、〇三四柱

次派遣	実施年	月・日	期間	地域	人員	収骨柱数
60	S56	2・25	24	マリアナ諸島	10	八九五
59	S55	11・18	25	ソロモン諸島	8	二二九
58	S55	3・5	21	パラオ諸島	7	二〇八
57	S55	3・5	21	マリアナ諸島	13	四〇八
56	S55	2・8	21	硫黄島	4	一〇二
55	S54	10・23	21	マリアナ諸島	7	四九六
54	S54	6・15	22	マリアナ諸島	7	二〇二
53	S54	3・3	23	パラオ諸島	7	二〇七
52	S54	2・16	23	硫黄島	9	一四六
51	S54	12・2	15	沖繩	3	九一
50	S53	11・5	14	硫黄島	6	一五一
49	S53	7・10	20	マリアナ諸島	5	一一三
48	S53	4・1	19	硫黄島	6	一一二
47	S53	3・7	15	ウエーク島	3	七八六
46	S53	3・7	11	インド	2	七四二
45	S53	1・30	11	タイ	2	六四二
44	S53	1・17	11	タイ	3	一四五
43	S52	12・12	14	硫黄島	2	一四六
42	S52	11・28	14	硫黄島	2	一四六
41	S52	10・3	28	ブラゲンビル島	7	二四六
40	S52	10・6	30	マリアナ諸島	2	一七六
39	S52	2・24	20	マリアナ諸島	20	一七六
38	S52	2・24	12	沖繩	5	一七六
37	S52	2・24	6	インド	2	一五〇
36	S52	12・18	19	マリアナ諸島	2	一五〇
35	S51	8・24	27	ソロモン諸島	5	一三九
34	S51	8・17	26	エモロウバ仔(ラソク地方)	10	八六八
33	S51	2・22	29	沖繩	17	一一三
32	S51	1・26	29	沖繩	10	一一三
31	S51	1・26	29	沖繩	17	一一三
30	S51	1・26	29	沖繩	17	一一三
29	S50	11・27	19	インドネシア	1	一七五
28	S50	10・15	29	中部太平洋諸島	8	九一四
27	S50	9・3	20	パラオ諸島	11	一五四
26	S50	9・3	20	パラオ諸島	10	一五四
25	S50	7・15	19	マリアナ諸島	14	四一四
24	S50	7・9	19	マリアナ諸島	18	三三三
23	S50	7・9	19	インド	2	三三三
22	S50	1・26	29	沖繩	15	二〇七
21	S50	1・23	30	沖繩	5	七五五
20	S50	11・20	18	マリアナ諸島	10	一四三
19	S49	10・17	28	インドネシア	4	一四三
18	S49	5・29	26	マリアナ諸島	32	二八九
17	S49	2・16	26	ビスマルク諸島	8	一五〇
16	S48	11・13	27	沖繩	15	一四三
15	S48	11・11	29	沖繩	15	一四三
14	S48	10・16	31	中部太平洋諸島	5	一三三
13	S48	9・18	31	東部ニューギニア	10	一六三
12	S48	7・19	30	マリアナ諸島	36	二九四
11	S48	5・18	26	マリアナ諸島	8	一八〇
10	S47	10・11	34	マリアナ諸島	34	三九〇
9	S47	5・18	26	マリアナ諸島	18	一〇〇
8	S46	3・3	26	マリアナ諸島	6	二〇〇
7	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
6	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
5	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
4	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
3	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
2	S46	2・2	26	マリアナ諸島	5	二〇〇
1	S44	8・9		ベリユー島	5	〇

次派遣	実施年	月・日	期間	地域	人員	収骨柱数
120	H9	8・27	15	マリアナ諸島	4	三二
119	H9	8・19	15	シベリア(沿海地方)	2	九〇
118	H9	8・23	16	モンゴル	6	一〇八
117	H9	7・16	15	シベリア(チタ州)	4	一〇三
116	H9	2・25	11	沖繩	4	二六
115	H9	1・14	16	シベリア(ハバロフスク地方)	2	二六
114	H8	10・13	14	ソロモン諸島	2	二六
113	H8	8・19	22	シベリア(チタ州)	10	二二三
112	H8	8・17	21	シベリア(チタ州)	1	一七二
111	H8	2・5	23	シベリア(チタ州)	1	一七二
110	H8	11・5	23	シベリア(チタ州)	7	一八一
109	H8	10・5	23	東部ニューギニア	6	一〇三
108	H7	9・5	23	シベリア(チタ州)	8	八三
107	H7	8・5	23	シベリア(チタ州)	10	七五
106	H7	8・5	23	シベリア(チタ州)	7	八三
105	H7	6・5	23	モンゴル	1	一八
104	H7	6・5	23	シベリア(チタ州)	1	一八
103	H7	2・20	15	シベリア(チタ州)	5	一七二
102	H7	2・20	15	シベリア(チタ州)	3	一七二
101	H7	2・20	15	シベリア(チタ州)	3	一七二
100	H2	2・19	19	パラオ諸島	4	八七
99	H2	2・15	22	硫黄島	2	二〇四
98	H2	11・8	22	シベリア(チタ州)	2	四四五
97	H元	7・13	22	シベリア(チタ州)	7	一五八
96	H元	2・4	22	シベリア(チタ州)	8	二二四
95	H元	2・4	22	シベリア(チタ州)	6	二二四
94	H元	1・26	24	シベリア(チタ州)	1	七二七
93	S63	10・22	18	マリアナ諸島	6	二七三
92	S63	10・22	18	マリアナ諸島	2	二七三
91	S62	6・11	23	硫黄島	1	二〇四
90	S62	6・2	30	シベリア(チタ州)	2	一一五
89	S62	6・2	30	シベリア(チタ州)	2	一一五
88	S62	2・27	14	硫黄島	10	一四一
87	S62	2・27	14	硫黄島	4	二二四
86	S61	10・12	24	シベリア(チタ州)	1	一〇四
85	S61	9・5	20	シベリア(チタ州)	6	一〇四
84	S61	5・24	31	硫黄島	3	三三八
83	S61	2・10	14	マリアナ諸島	7	二五五
82	S61	2・10	14	マリアナ諸島	1	二五五
81	S61	2・10	14	マリアナ諸島	3	二五五
80	S60	10・7	21	東部ニューギニア	3	二八七
79	S60	9・9	21	ソロモン諸島	3	三一九
78	S60	5・20	27	硫黄島	7	六三
77	S60	2・21	27	マリアナ諸島	13	二二九
76	S60	2・15	21	硫黄島	5	一一二
75	S59	10・10	14	シベリア(チタ州)	2	九六
74	S59	5・21	14	シベリア(チタ州)	10	三九四
73	S59	2・16	28	マリアナ諸島	2	二七〇
72	S59	2・16	28	マリアナ諸島	1	二七〇
71	S58	10・20	28	北ボルネオ	5	一七
70	S58	9・15	24	ガダルカナル島	5	二四八
69	S58	3・15	14	シベリア(チタ州)	1	一八九
68	S58	2・23	34	マリアナ諸島	10	五五五
67	S58	2・22	24	硫黄島	2	一一二
66	S57	11・31	24	シベリア(チタ州)	7	二七八
65	S57	10・31	26	シベリア(チタ州)	6	二七八
64	S57	2・9	25	シベリア(チタ州)	5	二七八
63	S57	2・9	25	シベリア(チタ州)	5	二七八
62	S56	2・9	32	マリアナ諸島	6	三九〇

次派遣	実施年	月・日	期間	地域	人員	収骨柱数
180	H14	8・4	30	シベリア(チタ州)	2	二七
179	H14	7・6	34	シベリア(チタ州)	4	三六
178	H14	6・6	20	シベリア(チタ州)	2	八三
177	H14	3・13	11	シベリア(チタ州)	2	四〇
176	H14	3・12	12	シベリア(チタ州)	3	四〇
175	H14	2・21	12	シベリア(チタ州)	2	一〇
174	H14	1・5	16	シベリア(チタ州)	10	一〇
173	H13	11・21	34	シベリア(チタ州)	8	二二
172	H13	11・19	20	シベリア(チタ州)	4	二二
171	H13	11・8	9	シベリア(チタ州)	2	二二
170	H13	9・27	16	シベリア(チタ州)	2	二二
169	H13	9・7	22	シベリア(チタ州)	2	二二
168	H13	8・6	19	シベリア(チタ州)	4	二二
167	H13	7・13	12	シベリア(チタ州)	1	二二
166	H13	7・15	22	シベリア(チタ州)	3	二二
165	H13	6・7	16	シベリア(チタ州)	2	二二
164	H13	6・7	16	シベリア(チタ州)	5	二二
163	H13	2・20	12	シベリア(チタ州)	1	二二
162	H13	2・20	12	シベリア(チタ州)	7	二二
161	H12	11・24	26	シベリア(チタ州)	10	二二
160	H12	11・23	15	シベリア(チタ州)	2	二二
159	H12	10・31	13	シベリア(チタ州)	2	二二
158	H12	8・22	17	シベリア(チタ州)	3	二二
157	H12	8・25	22	シベリア(チタ州)	2	二二
156	H12	8・25	15	シベリア(チタ州)	2	二二
155	H12	7・24	15	シベリア(チタ州)	2	二二
154	H12	7・21	18	シベリア(チタ州)	2	二二
153	H12	7・21	15	シベリア(チタ州)	4	二二
152	H12	6・2	25	シベリア(チタ州)	10	二二
151	H12	6・2	25	シベリア(チタ州)	6	二二
150	H12	2・13	10	シベリア(チタ州)	3	二二
149	H11	11・27	14	シベリア(チタ州)	4	二二
148	H11	9・26	15	シベリア(チタ州)	2	二二
147	H11	8・26	22	シベリア(チタ州)	2	二二
146	H11	8・26	15	シベリア(チタ州)	2	二二
145	H11	8・26	15	シベリア(チタ州)	2	二二
144	H11	8・27	18	シベリア(チタ州)	4	二二
143	H11	8・27	18	シベリア(チタ州)	2	二二
142	H11	8・27	18	シベリア(チタ州)	2	二二
141	H11	8・5	18	シベリア(チタ州)	2	二二
140	H11	7・21	44	シベリア(チタ州)	4	二二
139	H11	7・21	19	シベリア(チタ州)	3	二二
138	H11	7・23	1	シベリア(チタ州)	2	二二
137	H11	2・14	1	シベリア(チタ州)	3	二二
136	H11	1・27	28	シベリア(チタ州)	1	二二
135	H10	8・26	19	シベリア(チタ州)	1	二二
134	H10	8・26	22	シベリア(チタ州)	4	二二
133	H10	8・26	22	シベリア(チタ州)	2	二二
132	H10	8・25	14	シベリア(チタ州)	4	二二
131	H10	8・24	15	シベリア(チタ州)	8	二二
130	H10	8・5	37	シベリア(チタ州)	6	二二
129	H10	7・29	25	シベリア(チタ州)	5	二二
128	H10	7・29	11	シベリア(チタ州)	2	二二
127	H10	3・8	11	シベリア(チタ州)	1	二二
126	H10	2・15	18	シベリア(チタ州)	10	二二
125	H10	2・12	15	シベリア(チタ州)	4	二二
124	H9	9・12	18	シベリア(チタ州)	4	二二
123	H9	9・4	16	シベリア(チタ州)	4	二二
122	H9	8・27	15	シベリア(チタ州)	4	二二
121	H9	8・27	15	シベリア(チタ州)	4	二二

次派遣	実施年	月・日	期間	地	域	人員	取得柱数
240	H19	9・26	16	硫黄島		2	〇
238	H19	9・19	17	シベリア(沿海地方)		3	九三
237	H19	8・27	16	モンゴル		2	二六
236	H19	6・14	5	硫黄島		2	八四
235	H19	2・8	8	硫黄島		5	〇
234	H18	11・19	16	沖繩		2	八〇
233	H18	10・21	11	硫黄島		2	〇
232	H18	8・28	16	モンゴル		2	〇
231	H18	8・21	16	シベリア(チタ州)		4	六〇
230	H18	7・20	16	シベリア(ハバロフスク地方)		2	一七
229	H18	7・12	8	ガダルカナル島		1	六三
228	H18	6・18	12	硫黄島		2	四三
227	H18	2・19	13	硫黄島		2	〇
226	H18	2・9	12	沖繩県糸満市		20	四六
225	H18	1・21	13	インドネシア		2	一四
224	H18	11・30	13	硫黄島		2	〇
223	H17	11・19	13	インドネシア		2	一五
222	H17	9・27	15	フィリピン		2	〇
221	H17	9・27	15	ビスマーク・ソロモン諸島		2	三二
220	H17	9・7	16	硫黄島		2	〇
219	H17	8・28	17	シベリア(ハバロフスク地方)		4	五七
218	H17	8・21	14	シベリア(チタ州)		2	一四
217	H17	8・29	14	シベリア(サハリ州)		4	二二
216	H17	7・26	15	モンゴル		2	〇
215	H17	6・1	15	硫黄島		2	六八
214	H17	3・5	14	インドネシア		1	一五
213	H17	2・6	14	硫黄島		2	〇
212	H17	12・8	15	沖繩県糸満市		21	一五
211	H16	11・9	15	フィリピン		2	一七
210	H16	9・29	15	硫黄島		2	三七
209	H16	9・28	15	硫黄島		2	〇
208	H16	9・28	24	ビスマーク・ソロモン諸島		1	七七
207	H16	7・17	23	東部ニューギニア		1	四六
206	H16	7・30	23	ハカシア共和国		2	二七
205	H16	6・4	68	シベリア(沿海地方)		6	三四
204	H16	6・2	17	シベリア(アムール州)		1	四六
203	H16	3・7	14	硫黄島		2	〇
202	H16	3・2	13	パラオ諸島		6	六〇
201	H16	2・25	14	硫黄島		2	三四
00	H16	2・5	12	硫黄島		20	〇
199	H15	10・3	15	沖繩県糸満市		2	八
198	H15	10・22	18	東部ニューギニア		3	一五
197	H15	9・17	15	ソロモン諸島		2	〇
196	H15	9・14	18	硫黄島		2	〇
195	H15	9・13	16	シベリア(イルクーツク州)		2	四五
194	H15	9・7	16	シベリア(沿海地方)		4	四
193	H15	7・5	36	シベリア(イルクーツク州)		4	三三八
192	H15	7・5	24	ハカシア共和国		2	八四
191	H15	6・5	17	シベリア(ハバロフスク地方)		1	一六
190	H15	6・4	14	シベリア(チタ州)		2	一七〇
189	H15	3・9	12	硫黄島		4	〇
188	H15	3・6	13	パラオ諸島		4	〇
187	H15	11・22	3	沖繩県糸満市		10	七
186	H14	11・17	6	フィリピン		6	一二
185	H14	9・6	29	硫黄島		7	一五
184	H14	8・31	27	シベリア(チタ州)		1	四五
183	H14	8・31	24	シベリア(沿海地方)		4	一八
182	H14	8・11	22	シベリア(ハバロフスク地方)		1	一七七
181	H14	8・11	14	シベリア(ハバロフスク地方)		1	一七七

次派遣	実施年	月・日	期間	地	域	人員	取得柱数
310	H24	12・4	11	サイパン		1	二八
309	H24	11・27	16	硫黄島		3	二
308	H24	10・16	15	硫黄島		1	二
307	H24	10・16	15	硫黄島		2	七
306	H24	10・11	15	硫黄島		1	五
305	H24	9・18	9	サイパン		4	三〇
304	H24	8・25	11	硫黄島		2	一三五
303	H24	8・25	10	ソロモン諸島		4	八五
302	H24	8・22	16	モンゴル		2	二
301	H24	7・16	17	カサフスタン		1	一〇
299	H24	7・9	16	硫黄島		1	〇
298	H24	7・9	9	硫黄島		1	〇
297	H24	6・18	7	サイパン		5	一四三
296	H24	6・14	13	硫黄島		2	一四
295	H24	6・10	21	硫黄島		1	〇
294	H24	5・30	16	硫黄島		1	一四
293	H24	5・21	18	硫黄島		1	〇
292	H24	5・5	8	ソロモン諸島		1	〇
291	H24	6・19	9	サイパン		3	〇
290	H23	5・20	7	サイパン		2	〇
278	H23	2・26	10	沖繩		16	一六三
277	H23	1・27	10	硫黄島		18	八
276	H23	11・10	16	東部ニューギニア		2	二四
275	H23	10・7	16	シベリア(沿海地方)		2	一四
274	H22	8・22	20	モンゴル		1	三
273	H22	8・12	16	シベリア(ハバロフスク)		2	一四
272	H22	8・9	17	硫黄島		2	三
271	H22	6・30	10	ソロモン諸島		1	三
270	H22	3・7	12	硫黄島		1	八
269	H22	2・15	10	沖繩糸満市		1	九
268	H22	2・11	19	硫黄島		4	一三
267	H22	12・3	15	東部ニューギニア		2	一
266	H22	12・3	16	硫黄島		2	一
265	H21	11・16	11	フィリピン		2	四三
264	H21	10・4	19	硫黄島		2	〇
263	H21	8・30	17	モンゴル		2	三〇
262	H21	8・20	20	シベリア(ハバロフスク)		3	四二
261	H21	7・27	16	硫黄島		1	二
259	H21	7・11	17	硫黄島		4	一四
258	H21	2・2	9	沖繩		28	三
257	H21	2・11	16	硫黄島		3	二
256	H21	1・26	13	東部ニューギニア		2	一四
255	H21	11・10	17	硫黄島		4	一
254	H20	9・17	15	ソロモン諸島		3	一四
253	H20	8・25	16	モンゴル		1	二
252	H20	8・25	16	シベリア(サバイカル地方)		3	二四
249	H20	6・29	17	硫黄島		3	九
248	H20	6・29	16	硫黄島		4	二
247	H20	2・13	8	沖繩		18	二二
246	H20	2・13	6	硫黄島		2	二
245	H20	1・23	15	フィリピン		2	一五
244	H19	11・25	12	硫黄島		2	〇
243	H19	10・28	14	東部ニューギニア		4	九
242	H19	9・29	13	ガダルカナル		2	七八

次派遣	実施年	月・日	期間	地	域	人員	取得柱数
370	H26	9・24	16	硫黄島		1	一
369	H26	9・13	15	ソロモン諸島ガダルカナル		4	九八
368	H26	8・25	12	サイパン		3	三九
367	H26	7・15	15	硫黄島		2	〇
366	H26	7・15	16	シベリア(沿海地方)		2	一三
365	H26	7・8	11	硫黄島		1	四
364	H26	7・1	14	シベリア(ハバロフスク)		1	三二
363	H26	6・25	14	硫黄島		3	〇
362	H26	6・19	15	硫黄島		1	四
360	H26	6・11	14	硫黄島		2	三
359	H26	6・5	15	硫黄島		1	〇
358	H26	5・25	12	硫黄島		1	〇
357	H26	5・23	20	硫黄島		1	九
356	H26	4・11	12	硫黄島		1	〇
355	H26	4・4	4	硫黄島		3	一六
354	H26	4・3	4	グアム		1	〇
353	H26	3・1	6	ビスマーク・ソロモン諸島		1	二七
352	H26	3・1	4	サイパン		2	四
351	H26	2・25	16	硫黄島		2	五
350	H26	2・17	9	硫黄島		2	〇
349	H26	2・6	16	硫黄島		1	九
348	H26	2・4	10	沖繩		20	四
347	H26	2・1	10	硫黄島		4	一
346	H26	1・18	9	硫黄島		2	〇
345	H26	1・15	14	東部ニューギニア		1	一四
344	H26	1・11	16	硫黄島		2	九
343	H26	11・12	22	硫黄島		2	〇
342	H25	11・4	16	硫黄島		2	〇
341	H25	10・29	9	硫黄島		1	〇
340	H25	10・22	16	硫黄島		2	〇
339	H25	10・20	9	サイパン		4	一八
338	H25	10・19	10	硫黄島		2	七
337	H25	9・28	10	硫黄島		1	〇
336	H25	9・28	9	硫黄島		1	〇
335	H25	8・19	5	サイパン		1	〇
334	H25	8・25	12	モンゴル		2	〇
333	H25	8・21	10	ソロモン諸島ガダルカナル		3	一〇
332	H25	8・17	16	シベリア(沿海地方)		2	二
331	H25	8・17	15	シベリア(イルクーツク)		3	一八
329	H25	7・22	17	サイパン		1	二
328	H25	7・15	9	硫黄島		4	〇
326	H25	7・9	8	硫黄島		1	〇
325	H25	5・28	12	サイパン		3	一
324	H25	4・8	8	硫黄島		2	五
323	H25	3・19	6	サイパン		1	一
322	H25	3・14	8	テニアン		1	三七
321	H25	2・26	15	硫黄島		2	二五
320	H25	2・25	9	ビスマーク・ソロモン諸島		2	一四
319	H25	2・18	12	硫黄島		1	〇
317	H25	2・13	10	沖繩		15	四
316	H25	2・5	10	硫黄島		4	一
315	H25	1・23	14	硫黄島		2	一九
314	H25	1・11	16	東部ニューギニア		1	一
313	H25	1・10	15	硫黄島		2	九五
312	H24	12・6	9	硫黄島		1	三

次派遣 実施年	月・日	期間	地 域	人員	収骨柱数
430	H 29	11・14	樺太・占守島	2	一八
429	H 29	10・5	ソロモン諸島ガダルカナル島	1	三三
428	H 29	11・21	硫黄島	2	〇
427	H 29	9・21	硫黄島	2	〇
426	H 29	9・9	ソロモン諸島	2	〇
425	H 29	7・24	シベリア(ザバイカル)	2	九二
424	H 29	7・24	シベリア(アムール州)	2	二七
423	H 29	7・24	シベリア(ハバロフスク)	2	三三
422	H 29	7・3	シベリア(ハバロフスク)	2	二四
421	H 29	7・3	シベリア(アムール州)	2	二五
420	H 29	3・10	シベリア(ハバロフスク)	2	三一
419	H 29	3・12	トラック諸島	3	一一
418	H 29	3・8	ビスマーク諸島	3	一七
417	H 29	2・6	ミヤンマー	22	二〇
416	H 29	2・7	沖縄	2	一一
415	H 29	1・18	東部ニューギニア	3	一一
414	H 28	11・28	硫黄島	1	二四
413	H 28	11・27	ソロモン諸島ガダルカナル島	1	一五
412	H 28	11・22	パラオ	4	二四
411	H 28	11・20	沖縄	4	〇
410	H 28	9・28	硫黄島	4	〇
409	H 28	8・27	ソロモン諸島ガダルカナル島	2	二六
408	H 28	8・22	マリアナ諸島	1	三三
407	H 28	8・17	沖縄	1	〇
406	H 28	7・10	シベリア(ザバイカル)	2	一四
405	H 28	7・12	シベリア(ハバロフスク)	2	二〇
404	H 28	6・8	ビスマーク諸島	4	一一
403	H 28	3・6	東部ニューギニア	2	三九
402	H 28	2・10	沖縄	2	一七
401	H 28	2・9	東部ニューギニア	19	二七
399	H 27	12・1	硫黄島	3	二七
398	H 27	11・24	硫黄島	1	九
397	H 27	11・24	硫黄島	3	九
396	H 27	11・2	サイパン	5	一五
395	H 27	9・5	ソロモン諸島ガダルカナル島	3	九
394	H 27	8・29	ソロモン諸島ガダルカナル島	3	九
393	H 27	7・14	シベリア(イルクーツク)	2	七六
392	H 27	7・14	シベリア(沿海地方)	2	四二
391	H 27	7・7	シベリア(ハバロフスク)	2	三九
390	H 27	6・30	硫黄島	3	七
389	H 27	4・15	硫黄島	8	〇
388	H 27	4・2	硫黄島	1	〇
387	H 27	2・27	タアム	2	〇
386	H 27	2・25	硫黄島	5	〇
385	H 27	2・22	ビスマーク諸島	2	二
384	H 27	2・19	硫黄島	1	〇
383	H 27	2・5	硫黄島	1	〇
382	H 27	1・29	沖縄	20	一五
381	H 27	1・18	硫黄島	3	二〇
380	H 27	1・15	硫黄島	1	二
379	H 27	1・15	硫黄島	3	一
378	H 27	1・14	東部ニューギニア	2	二五
377	H 26	12・2	パラオ諸島ペリリュー	2	八
376	H 26	12・2	硫黄島	1	〇
375	H 26	11・30	硫黄島	1	〇
374	H 26	11・20	硫黄島	2	一
373	H 26	11・11	硫黄島	3	一
372	H 26	10・23	硫黄島	1	〇
371	H 26	10・9	硫黄島	1	〇

次派遣 実施年	月・日	期間	地 域	人員	収骨柱数
490	R 6	2・5	沖縄	17	六
489	R 5	11・30	硫黄島	4	二七
488	R 5	10・27	パラオ諸島	3	〇
487	R 5	10・24	マシヤル諸島	1	〇
486	R 5	9・30	カザフスタン	1	〇
485	R 5	9・26	硫黄島	1	〇
484	R 5	8・28	ソロモン諸島ガダルカナル島	2	〇
483	R 5	7・25	モンゴル(ノモンハン)	1	二二
482	R 5	7・25	硫黄島	2	一七
481	R 5	2・7	沖縄	19	〇
480	R 4	11・30	硫黄島	1	二五
479	R 4	11・28	パラオ	1	三四
478	R 4	9・19	硫黄島	1	二九
477	R 4	7・28	硫黄島	1	二二
476	R 4	7・19	硫黄島	1	二一
475	R 4	7・16	硫黄島	1	〇
474	R 4	7・23	硫黄島	1	〇
473	R 3	11・18	硫黄島	1	一四
472	R 3	10・3	沖縄	1	〇
471	R 3	6・18	硫黄島	6	一〇
470	R 3	3・19	沖縄	12	一
469	R 2	11・22	硫黄島	1	一六
468	R 2	9・29	硫黄島	1	一九
467	R 2	7・29	硫黄島	1	一四
466	R 2	2・29	硫黄島	2	一四
465	R 2	11・24	硫黄島	2	〇
464	R 2	9・26	硫黄島	2	〇
463	R 2	8・19	硫黄島	2	〇
462	R 2	8・19	カザフスタン	2	三四
461	R 2	7・7	シベリア(ハバロフスク)	4	八
460	R 2	7・7	硫黄島	2	三
459	R 2	7・23	硫黄島	2	一八
458	R 2	7・22	シベリア(ハバロフスク)	1	一
457	R 2	5・13	マリアナ諸島	2	二六
456	R 2	3・1	シベリア(イルクーツクザバイカル)	2	三〇
455	H 31	2・27	ミヤンマー	3	四〇
454	H 31	2・20	マシヤル諸島	1	四八
453	H 31	2・13	ビスマーク・ソロモン諸島	2	四二
452	H 31	2・12	東部ニューギニア	15	約七
451	H 31	1・29	沖縄	2	四七
450	H 30	12・1	硫黄島	2	七
449	H 30	11・27	パラオ	2	四
448	H 30	11・13	硫黄島	2	四
447	H 30	10・30	樺太	1	二
446	H 30	10・30	硫黄島	1	二
445	H 30	9・19	トラック諸島	2	八
444	H 30	8・27	ビスマーク・ソロモン諸島	4	三八
443	H 30	8・6	シベリア(ハバロフスク)	2	三一
442	H 30	7・23	シベリア(クリヤト共和国)	2	一〇
441	H 30	7・23	シベリア(クリヤト共和国)	2	一〇
440	H 30	7・23	シベリア(ハバロフスク)	2	四三
439	H 30	6・26	シベリア(ザバイカル)	2	二五
438	H 30	3・7	硫黄島	3	二
437	H 30	2・24	ソロモン諸島ブーゲンビル島	4	一五
436	H 30	2・14	パラオ諸島	2	七九
435	H 30	2・5	東部ニューギニア	4	八三
434	H 30	1・31	沖縄	8	一七
433	H 30	1・27	マリアナ諸島	4	三九
432	H 29	11・30	硫黄島	2	一六
431	H 29	11・27	沖縄	1	〇

次派遣 実施年	月・日	期間	地 域	人員	収骨柱数
507	R 7	2・17	ビスマーク・ソロモン	1	一三
506	R 7	2・10	沖縄(自主派遣)	38	二〇
505	R 7	2・9	パラオ諸島(アンガウル)	2	二〇
504	R 7	1・28	硫黄島(四次)	1	三三
503	R 7	1・21	ミクロネシア(ウルシ環礁)	6	〇
502	R 6	12・3	パラオ諸島(アンガウル)	1	〇
501	R 6	11・26	ビスマーク・ソロモン諸島	2	一四
499	R 6	11・17	硫黄島	3	三三
498	R 6	10・10	マリアナ諸島(サイパン)	1	二四
497	R 6	9・24	パラオ諸島(サイパン)	2	二四
496	R 6	8・25	カザフスタン	1	二九
495	R 6	6・18	カザフスタン	1	二一
494	R 6	6・18	トラック諸島	1	一七
493	R 6	5・8	ソロモン諸島ガダルカナル島	1	〇
492	R 6	3・8	マリアナ諸島(サイパン)	2	二六
491	R 6	3・8	ソロモン諸島ガダルカナル島	2	〇